

# 平成29年度 岩国市立美和西小学校 学校評価書

校長( 池本 武志 )

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>教育目標……「よさを生かし たくましく生き抜く 学力・心力・体力の育成」(美和西プライド 美和西ガッツ 美和西パワー)                  「よさを生かし」……自分のよさ、学校のよさ、地域の自然・風土・歴史・人材などのよさを理解し、そのよさを強みとして課題に取り組む(美和西プライド)                  「たくましく生き抜く」…夢や目標を実現するための、粘り強さ(レジリエンス力)、根気強さ(グリッド力)、協働性(コミュニケーション能力)などの力を育む(美和西ガッツ)                  「学力・心力・体力」…確かな学力・豊かな心・健やかな健康体力のバランスが取れた児童を育む(美和西パワー)</p> <p>年次目標…1年次…基礎作り【よさの気づきと信頼関係の構築】                  学習規律の定着、推進体制(ボランティア、コミスク組織)の再構築、小中連携カリキュラム作成(体験と道徳の関連)                  2年次…学び合いの充実【協働的な課題解決力の向上】                  思考力・表現力の向上 ICT教育の充実、協働体制の強化(学級・学校、保護者・地域、小中連携等)                  3年次…美和西ブランドの確立【児童の参画と創造によるコミュニティスクールづくり】                  美和のよさを理解、創造、提案して、その取組や成果の発信</p>
---

<p><b>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</b></p> <p>【学力向上】全体的に学力は向上傾向にあるが、個人差や学級による差が大きい。学習規律の定着や読み・書き・計算の技能を伸ばしながら、児童が主体的に学習に取り組み、思考力・表現力を高めるような授業改善を図ることが課題である。                  【心力向上】規範意識の醸成、ていねいな言葉遣い、子ども同士のよりよい人間関係づくりに計画的・継続的に取り組んでいく必要がある。                  【体力向上】地域の人とのかかわりを大切にしたい。体験活動のさらに充実させていきたい。                  【保護者・地域との連携】美和らしい保・小・中・高連携や小中一貫教育を見据えた教育に地域とともに取り組んでいきたい。                  【人材育成】プロジェクト型の校務分掌は、組織的な学校運営における人材育成にも大変効果があった。教職員一人ひとりの課題を明確にして資質能力の向上を図りたい。                  【業務改善】時間外勤務は減少傾向にあるが、教材研究等でかなりの時間外勤務がある。業務改善委員会での協議や教職員へのアンケートをもとに組織的に業務改善を進めていきたい。</p>
---

<p><b>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</b></p> <p>【学力】①学習規律(学習準備 話の聴き方 話し方 学習姿勢)の定着 ②読み書き計算の習熟(毎日読書・音読、条件作文、加減乗除)③思考力を高める話し合い(自分の考えを説明し、考えを比較・関連づけることによる思考力の育成)                  【心力】①規範意識(あいさつ 言葉遣い くつそろえ、ルール遵守)の醸成 ②相手のことを考え、行動する心(困っている人への声かけ、自分ができることをする)③郷土愛(美和のよさの理解 地域行事への積極的な参加・参画)の育成                  【体力】①基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯、時間厳守)の定着 ②外遊びや健康体操(業間・全校体育)で体力づくり ③食育推進(体験活動と関連させた指導 感謝の心の育成 食生活の改善)                  【保護者・地域との連携】①学校支援ボランティア組織の見直し②学校の重点目標達成に向けた保護者・地域によるPDCAマネジメント③小中連携カリキュラム(めざす児童・生徒像 体験活動の関連性 道徳年間計画)の作成                  【人材育成】重点目標と自己目標を一体化した取組を通じたOJTによる人材育成                  【業務改善】残業時間の削減(前年度比10%削減)</p>
---

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	取組状況および成果・課題	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	
教育課程・学習指導	児童が学習規律を身につけ、集中して学習に取り組むことができる	・聴き方、姿勢の徹底 ・時間、点数等成長の見える化による意欲化を図る ・特別支援に配慮した学習環境づくり	行動目標:聴き方・姿勢が定着するまで指導をした 成果目標:忘れ物をせず、授業では話をよく聞いた	年間を通じて聴き方、姿勢の指導をした。学習に集中して取り組む意欲を高めるために、大型テレビなどの視聴覚環境を充実させるとともに、視覚に訴える教材を準備するなどした。見通しを持って学習に取り組めるように、めあて把握、個別学習、意見交換、まとめ・振り返り、という決まった流れに原則なるように授業を考えた。	3	聴き方については改善が見られたが、姿勢については、さらに指導を続ける必要がある。学習準備は改善傾向にあるが、学習用具については見直しをしていきたい。また、家庭学習の定着は依然として課題である。指導の声かけに加えて、ICTの活用など児童の学習意欲を高める工夫もしていきたい。	
	児童が読み・書き・計算に習熟し、学年・個に応じた目標値を達成できる	・図書室の充実と活用 ・詩の暗唱、音読の発表 ・百マス計算などでの鍛錬 ・やまぐち学習支援プログラムの活用 ・個人指導計画の作成	行動目標:習熟させる時間を毎日確保した 学力個人カルテを作成した 成果目標:学力確認問題が県の平均を上回った	図書担当と推進員が連携して図書室の充実に取り組み、図書の時間を位置づけて、活用を図った。音読、計算の鍛錬は昼休み、放課後、長期休業中などボランティアの協力を得ながら取り組んだ。2学期末からは、時間、量の目標を持たせ鍛錬を強化した。個別の支援計画を作成し、個別指導などの個に応じた支援を行った。	3	10月の定着状況確認問題では、全学年で学力の定着に課題が見られた。特に算数では、四則演算ができないなど基礎的な知識・技能が定着していない状況が見られた。さらに全校体制での学力向上への取組を推進するとともに、保護者・地域とも連携して取り組む必要がある。	
	児童が自分の考えを発表し、友だちの意見とつなぐことができる	・多様な考えを引き出す学習課題の工夫 ・わかりやすく説明する技術の指導 ・考えの比較・分類等によるまとめ	行動目標:ペアやグループで話し合うことをよくした 成果目標:わかりやすく説明し、考えを比べながら聞くことができた。	道徳の研究授業を通して、多様な考えを引き出す学習課題の工夫等について研修した。発表の仕方の定着、ホワイトボードの活用などを通してわかりやすく説明する力をつける努力をした。発表を分類して板書することで、考えを深める工夫をした。児童が主体的に説明できる力を育むことが課題である。	3	ペアやグループでの学習を取り入れた授業をどの学年でも日常的に行うことで、自分の考えを発表できる児童が多くなった。しかし、相手を意識してわかりやすく説明すること、さらに、比較・分類するなどして考えを深め合うなど、学び合いの質を高めることが必要である。	

<p>学校関係者からの意見・要望等</p> <p>基礎学力を鍛えることはとても大切で、これから学んでいく基礎となるので、大いに推進してほしい。                  授業参観をすると、発表する児童が固定化しているように感じた。参観者の目を気にしているのかもしれないが、どの児童も堂々と自分の考えを発表できるようにになるとよい。                  家庭学習の定着は家庭の責任が大きい。学校に頼りすぎている傾向があるのではないかと。家庭での教育力を高める必要性を感じる。</p>	<p>評価</p> <p>4</p>
---	--------------------

<p>生徒指導</p>	<p>児童がすすんであいさつをするなど、自分で考え、よりよい行動を取ることができる</p> <p>児童が協働意識を高め、困っている人に声をかけ、できることをすすんですることができる</p> <p>児童が休み時間は友だちと外で遊び、健康体操をすることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域と連携したあいさつ運動</li> <li>・よりよい学級・学校に向けた話し合いと評価・改善</li> <li>・困っていることの表現</li> <li>・困っている人への声かけと協働した解決の経験</li> <li>・縦割り活動の推進</li> <li>・児童が主体となった縦割り遊び</li> <li>・全校体育・業間運動での全校運動</li> </ul>	<p>行動目標: あいさつ、規則遵守が定着するまで指導をした</p> <p>成果目標: すすんであいさつ、くつそろえができた よりよい学級・学校にするために話し合うことができた</p> <p>行動目標: よりよい人間関係作りの取組をした</p> <p>成果目標: 困っている人がいれば声をかけることができる</p> <p>行動目標: 児童が主体的に運動する工夫をする</p> <p>成果目標: すすんで友だちと外で遊んだ</p>	<p>教員・保護者・地域が協力して、毎日あいさつ運動に取り組めた。 6年生の全校遊び企画など、よりよい学級・学校に向けた取組があった。 年間を見通して、課題に気づかせ、評価・改善に取り組ませていくことが課題である。</p> <p>授業の中で、わからない、できないで困っている児童に対して、児童相互で声かけし、支援する場を作った。 落ち葉掃除や通学路のゴミ拾いなど、すすんで奉仕する児童を一斉下校などで認めた。 協働した課題解決と振り返りによる改善、上級生のリーダー意識の醸成が課題である。</p> <p>砂場の整備やバスケットゴールの設置など、運動に親しむ環境整備に取り組んだ。 教員も児童と遊ぶなどして、寒くても外で遊ぶことを奨励した。また、業間体育で柔軟運動や持久走などに取り組み、体力テスト等でよい成績を残した。 多様な遊び、多様な人とのふれあいが課題である。</p>	<p>3 年度初めより、相手を意識したあいさつのできる児童が多くなった。しかし、児童の意識には差があり、中間の評価と比較すると改善が見られなかった。次年度は特に「あいさつ」に焦点を当てて、児童が主体となった取組となるようにしたい。</p> <p>3 各学年で困っている友だちに、自ら声をかけ、支援する児童の姿が見られるなど、思いやりの心が育ってきている。 異年齢集団や地域の人とのふれあい等で、よりよい交流ができるように、体験的な活動の場を活用していきたい。</p> <p>3 体力テストでは、県平均を上回ることができている。運動の好きな児童が多く、異学年と遊ぶ姿が見られる。6年生による全校遊びの企画は課題もあったが好評であった。PTAや地域も参加することも視野に入れて、遊びを通して体力作りに取り組みたい。</p>	<p>児童は地域ではよくあいさつしている。あいさつ運動の目的を明確にして取り組むとよい。 本校児童の特性として、言われたことや指導されたことには素直に取り組むが、主体性が弱いところがある。また、リーダーシップをとる児童が近年いなくなった。委員会活動などで主体的に企画させて取り組ませるとよいのではないか。 全校遊びでは、昔の遊びを通して、体力づくりや思いやりなどを育めるのではないか。</p>	<p>4</p>
<p>家庭・地域社会との連携</p>	<p>児童が早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣を身につけることができる</p> <p>児童が食べ物に感謝し、健康を考えた食事をしようとする</p> <p>児童が美和のよさを知り、すすんでよりよい地域づくりに参加することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと連携した早寝・早起き・朝ごはん、ノーテレビデー、時間を守る意識推進と評価</li> <li>・地域ボランティアの指導による農作物作り</li> <li>・給食時間、学校保健委員会等における食育学習</li> <li>・生活科、総合的な学習における地域学習の充実</li> <li>・地域行事への積極的な参加</li> <li>・地域ボランティアの再構成と授業参加の促進</li> </ul>	<p>行動目標: 家庭と連携して基本的な生活習慣の定着に取り組んだ</p> <p>成果目標: 早寝・早起きに気をつけて過ごしている</p> <p>行動目標: 食に関心を持ち、感謝する心を育む工夫をする</p> <p>成果目標: 好き嫌いをせずに食べている 作った人に感謝して食べている</p> <p>行動目標: 美和の自然・文化に愛着を持つ工夫をした</p> <p>成果目標: 美和の町が好きだ すすんで地域の行事に参加している</p>	<p>朝のあいさつ運動への参加や、学校保健委員会における早寝・朝ごはん・排便への取組を、保護者と連携して行った。 年度初めに課題を共通認識した上で、PTA主導で具体的な取組、評価・改善に取り組むことが望ましい。</p> <p>ボランティアの協力を得て、いも、野菜、米などの農作物作りを1年生から5年生までが体験できた。 委員会の児童による食材や献立の説明などに取り組むことができた。 また、ランチルームで全校そろって給食をとり、季節の行事等をともに楽しく過ごすことができた。</p> <p>各地域の人々と交流するふるさと学習や地域の行事への参加などを通して、地域のよさを学ぶことができた。 様々な体験をしているが、課題解決能力などの力をつける指導計画とすることが課題である。 計画の見直しのためには、地域ボランティアとの共通理解が必要なので、ボランティア会議を開きたい。</p>	<p>3 メディアとの接し方や規則正しい生活については、学年が進むにつれて崩れる傾向にある。このことが、学習への取組姿勢などに影響が出ている。 学年に応じた家庭学習の定着に、学校と家庭が連携して取り組んでいきたい。</p> <p>3 給食時における食育、農作体験などを通して、食に感謝する児童が多い。 しかし、箸の使い方や食事のマナーが身につけていない面があるので、さらに家庭と連携して取り組んでいきたい。</p> <p>4 地域の人材・自然・文化・産業等を生かした学習を通して、美和のよさに気づき、愛着を感じている児童は多い。 しかし、地域の行事参加する児童には偏りが見られる。児童が主体的によりよい地域作りに関心を持つような取組をしたい。</p>	<p>児童はダンスや神楽などで表現する力を地域で学んでいる。チャレンジフェスタでは、地域で学んだことの発表や地域も参加できる企画を児童主体で考えさせてはどうか。 地域への奉仕的な活動を、児童が地域の人々とともに考えて取り組ませるなど、地域の人々に力を借りながら児童が主体的に企画させることで、児童の主体性やリーダー性を地域の人々ともに育むことができるのではないか。</p>	<p>3</p>
<p>人材育成・業務改善</p>	<p>学校教育目標達成に向けた各教職員の目標を達成することができる</p> <p>思考力・表現力を高める対話的な授業をすることができる</p> <p>残業時間を削減することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己目標シートの有効活用</li> <li>・校務分掌のプロジェクトによる課題解決</li> <li>・学校評価による改善マネジメント</li> <li>・校内研修課題の焦点化と改善マネジメント</li> <li>・関係者による評価の活用</li> <li>・学力向上推進教員、市教委指導主事等と連携した指導力向上</li> <li>・業務内容、業務分担の見直し</li> <li>・コミュニティスクールを生かした学校支援の充実</li> <li>・教育課程のスリム化・効率化を図るプロジェクト</li> </ul>	<p>行動目標: 目標達成に向けてプロジェクトで取り組んだ</p> <p>成果目標: 自己目標シートで目標に対する評価で、Aが2個以上ある</p> <p>行動目標: 思考力・表現力を高める授業改善に取り組んだ</p> <p>成果目標: 校内研修で対話的な授業をする力が高まった</p> <p>行動目標: 教育課程のスリム化を図るプロジェクトに取り組んだ</p> <p>成果目標: 残業時間を平成28年度比10%削減できた</p>	<p>キャリアに応じた各教職員の目標に向けて、個々の意欲的な取組が見られた。 また、学力向上、心力・体力向上の各プロジェクトにおいて、評価・改善して取り組むことができた。 成果を上げるべく、焦点化して、徹底した取組が課題である。</p> <p>校内研修では道徳科の研究授業を核として取り組み、研修課題を焦点化し、つながりのある研修をした。また、学力向上推進教員による指導力向上を図る研修も教員が主体的に取り組んだ。さらに、学校運営協議会委員の意見を聞く研修もできた。 児童の思考力・表現力をさらに高める指導をしたい。</p> <p>環境整備、学習支援、見守り等、ボランティアの協力は増えて、学校としての総合力は高まった。 教育課程のスリム化については大きな改善はできていない。 学習指導要領への対応で業務が増えることが予想される。関係者で知恵を出し合って取り組みたい。</p>	<p>3 各教員個々の目標はおおむね達成できた。 目標達成としては、体力面での成果が出ているが、最重要課題である学力面で成果を見るに至っていない。 学校課題解決に向けた個々の目標をさらに明確にして取り組むたい。</p> <p>3 研修課題を解明するために教職員が熱心に意見交換し、事前の模擬授業などに取り組むなど、指導力の向上を実感できる研修となった。 今年度の研修の成果を次年度につなぎ、さらに指導力向上を図りたい。</p> <p>2 できるだけ、早く仕事を終わるという意識は高まってきており、勤務終了時刻目標を個々の教職員が設定して取り組んだ。 大きな行事前や研究授業前に残業が多くなった。 経験の浅い教員が多い中、難しい面があるが、保護者や地域の理解を得ながら改善していきたい。</p>	<p>朝早くから、夜遅くまで先生方が勤務されている姿に、いつも頭が下がる思いがする。しかし、残業時間削減に向けて着実に取り組んでいかなくては、先生方が体を壊されてしまう。熱心だからよいという価値観を変えて、無理をされないように気をつけていただきたい。保護者・地域の理解や協力を得て、業務時間削減にはできるところから進めていただきたい。</p>	<p>3</p>

学力向上については、授業改善や少人数の良さを生かした基礎学力定着への取組を高く評価していただいた。しかし、児童の学力はどの学年も基礎的な読み・書き・計算の定着、思考力・表現力に課題があり、学力調査等で目標に達することができていない。各学年の課題ができるまで鍛えていくこと、家庭学習等を家庭と連携して取り組むことが今後の課題である。

生徒指導においては、地域でのあいさつや外遊びの取組を高く評価していただいた。主体的に考えて、よりよい判断をし、協働して課題を解決していく取組事例が見られたことも評価していただいた。さらに主体的に考え、取り組む経験を積ませることを通して、主体性やリーダーシップを保護者・地域と連携して育てていくことが今後の課題である。

家庭・地域との連携は、美和の特色を生かした体験を通して学んだことを評価していただいた。学校へさらに多くの地域の方に来校していただき、児童につけたい力(課題解決能力)を共有して取り組むことが今後の課題である。

人材育成・業務改善については、指導力の向上への取組を評価していただいた。残業時間削減については、熱心すぎて体調を崩すことを心配していただいた。さらなる業務のスリム化を図ることが課題である。

## 7 次年度への改善策

学力を全国平均までに高めるために、(1)読み・書き・計算を鍛錬する時間を時間割に位置づけて全校で取り組み、成果を年2回の美和西小学力テストで評価する(2)生活科・総合的な学習の時間の計画を見直す(3)ICTの活用、情報活用能力の計画的に育成する(4)家庭と連携して家庭学習の定着を図っていく。

体力向上を図るために、(1)児童企画の全校体づくり・全校遊びをする(2)体づくりカードやイベントなどで運動に関心を持たせ取り組ませる(3)昔の遊びを教わるなど、保護者・地域と連携して多様な遊びの体験や基本的生活習慣の定着を図る

自分で考え、よりよく行動する態度を育むために、(1)道徳の重点内容項目を「善悪の判断、自律、自由と責任」「友情、信頼」として取り組む(2)主体性・リーダーシップを育むことをねらった特別活動や行事の計画を立てる(3)いつでも、どこでも、だれにでも気持ちのよいあいさつをするあいさつ運動を重点的に取り組む。

これに指導力向上・業務改善を加えて、学力向上プロジェクト、心力向上プロジェクトを中心に保護者・地域と連携してPDCAマネジメントで改善しながら取り組む。